

幸区区民会議第2回専門部会A「安全・安心・すこやか部会」摘録

開催日時 平成18年10月3日(火) 午後6時30分～8時35分

会場 幸区役所5階第2会議室

参加者

専門部会A委員 手塚善雄部会長、末兼卓副部会長、青山一、荒井康男、大久保芳城、
小林豊、綱川幸子、萩原保男、葉山直次、安岡信一

専門部会B委員 庄司佳子、菅野勝之

事務局(総務企画課) 大八木課長、高橋主幹、北谷主査、上松職員、吉田職員
(地域振興課) 大場課長

(株)CSK 福田研究員 (以上 19名)

司会進行：事務局 北谷

開会(事務局：北谷)

本会議の情報公開に関する委員の了承
配布資料と次第の確認。

開会あいさつ(手塚部会長)

第1回では、活発な議論をしていただいたが、時間が足りなく不十分だった。今回、ある程度の方向をまとめなくてはならない。よろしく願いしたい。

1. 玉川小学校避難所運営会議委員長 黒川弘志氏による報告

(1) 事務局による黒川弘志氏プロフィールの紹介。

(2) 黒川弘志氏による報告

中原区で幸区に一番近い地域に住んでいる。

今から40年ほど前は、南武線の線路東側に救急車がなかった。友人のお母さんが、南武沿線道路ができたときに交通事故に遭い、救急車を呼んだが、30分しても来なかった。息子が車に乗せて病院に行ったが、最後には亡くなった。何とか救急車を配備してもらおうと行政に話し、署名活動をし、約1万人の署名を集めた。

そういった活動をしているなら、防災部長をやれと町会長から言われ、一人だけの防災部を立ち上げ活動した。その後、玉川小学校が玉川中学校のネットワークの中で避難所に位置づけられた。町会長ではなかったが自主防災隊を組織して活動していたので、委員長をやれと言われて引き受け、30年ほどになる。

阪神・淡路大震災の時は、市の危機管理室にお願いし、防災講演会を3回ほど開催した。だが、どうしても考えなくてはという内容の講話が聞けないのが現実だった。自主防災を進める中で、もっと現実的な形にしないと誰もついて来ないということで、役所と協力し、今年6月11日に避難所の訓練を実施した。5年ほど前に、玉川中学校で訓練をしたが、ネットワークの中には、橘高校、下沼部小学校、玉川小学校、玉川中学校と4つ避難所がある。玉川中学校がネットワークの長という形で防災訓練を実施し、自分たちはオブザーバーという形で参加した。しかし、実態がまったくわからないので、玉

川小学校で訓練をすることにした。もし避難所を開いたときに、何をするか、町会を中心に考えないといけない。玉川小学校には、中丸子南町内会、上平間第一町内会の一部、中丸子東町会の3つがある。玉川小学校は、備蓄倉庫が置かれた恵まれた小学校であり、これは、区内で2つの小学校だけである。中学校にはすべて備蓄倉庫が置かれている。

実際に自分たちの手で避難所を運営するための努力をしないとけないということで、町会長が集まった。まず、玉川小学校に行き、どこまでを地域の防災センターとして使わせてくれるか学校側と話し合いをした。体育館とそれに付属する部分だけだった。校長室、職員室は、重要な書類が保管されているので断られた。淡路の時に重要な書類が燃やされたことがあった。玉川小学校が避難所になっていても、鍵がない。その鍵をどうしても欲しい。役所は誰かが持っているということだったので、持っている人の名前を聞いたが公開されていない。役所を問い詰めたところ、中原区役所にあることがわかった。いざというときは、区役所まで取りに行き学校を開ける状態だった。昨年話し合いをし、少なくとも所属している町会長に鍵だけを預けてくれということで、合い鍵をつくり、文書を交わして、三町会の町会長が鍵を預かった。

次に訓練の前に、備蓄倉庫にどんなものがあるのか見てみたいということで、昨年、備蓄倉庫を見せてもらった。どんなものが保管されているか、役所からリストをもらい点検した。会議を繰り返す中で、避難所訓練をしようという機運になり、47名が集まり、6月11日の日曜日に、9時に集まり訓練をした。

工事現場で使うトイレは目方が重く、素人4人や5人では出せない。小学校には6台ある。ホ口の障害者用の軽いものなら持って出せるということで使った。ウンチくんというボックス型の簡単なものも使った。どうせならということで、炊き出し訓練も実施した。そういう形で実施したが、トイレを組み立てるのに、15人がかりで1時間半かかった。ウンチくんというダンボールの箱は簡単にできた。できあがったというので見に行き、組み立てた班長に「紙がないけどどうするの」と聞くと、箱の中にはトイレットペーパーがなかったという。防災担当の職員によると、玉川小学校の避難所にはトイレットペーパーは置いてないという。南部の防災センターに一括で格納してあるということだった。ウンチくんは30個ある。組み立てて見たら、箱だけで中袋がないため、使い物にならない。組み立てた女性の担当者に聞くと、袋なんか入ってなかったという。箱の外側には、中袋無しときちんと書いてあった。現実問題として使い物にならない。

反省会をしてないので、役所の意向がまだわからないが、まず、訓練を実施してみる。その中で、どうしたらいいかを考える。幸区には幸区のやり方がある。御幸なら御幸など、地域に合った内容、地域性を含めて真剣に考えないと、どうしても後手後手に回ってしまう危険性がある。私は常時、中原区の防災担当者といろいろ話をし合っている。

7、8年前から、地震が起こったらどうしたらいいかと思っていて、昨年30ページの冊子を作成した。ある友達に、中身はいいけど誰も読まないと言われた。縦書きでカットのないものを、今時の人が読むと思うかと言われ、カットを書いてくれた。8月に作り直して、500冊作成した。役立つことが書いてあると思う。

参考になることもあるかと思うので、いつでも話をしに来る。

手塚 ありがとうございます。時間がなくてもっと話を聞きたいのに残念だ。

末兼 3ページ、「避難所の安全確認」の中で、施設管理者同行と書いてあるがどういうこ

とか。

黒川 施設管理者同行というのは、学校の職員、校長や教頭、委員長あるいは副委員長になっている町会長、PTA 会長といった人で、避難所になっているところを確認して回るということ。

末兼 玉川小学校の対象は何世帯か。

黒川 中丸子南が 900、中丸子東が 500、上平間第一が 600 くらいではないか。

末兼 3 ページに災害弱者収容スペースとある。町内会としては、未来を向いているのか、現在を向いているのか、過去を向いているのか。運営の仕方が見えない。

黒川 私の考え方では現在だ。けが人や老人など。

末兼 災害弱者の人数はつかんでいるのか。

黒川 やらなくてはと思っているが、数は出ていない。反省会でその話を出したい。

末兼 資料の内容を見ると時系列が中心になっているので、もう少し整理するとよい。

黒川 今、個人情報保護法があり、町会の名簿も作れない現実がある。障害者などをどう扱うかは大きな問題になる。

末兼 自然災害が発生した際は、法律上は無視して個人情報をどこかでつかまないといけない。この部会でも何とかできないかという話し合いをしている。

黒川 町会だけでは難しい。民生委員、社協などを含めないと無理だ。他と連携して実数を把握しないと、玉川小学校の児童 600 人が入っていっぱいになる体育館に、果たして何人収容できるのだという問題になる。

葉山 行政や警察、消防との連携はどうなっているのか。

黒川 ざっくりばらんに言うと、この資料はすべて行政で作成してもらった。

こういうふうなこと、救護班はこうした方がいい、総務班はこういうことをやった方がいいというのは、これから真剣に考えないと、このマニュアル通りにはいかないと考えている。

末兼 ここにあるのは政府の指針なので、重要ではあるが大都市では役に立たない。

青山 備蓄倉庫を調べ、これが足りなかったというものはあるか。

黒川 たとえば、50 人分のアルファ米がある。作るには 8.5 リットルの水を沸かさなくてはならないが、玉川小学校には、コンロ、鍋、やかんがない。一個だけでは 50 人分しかできないので、コンロや鍋が何個必要になるのか。お湯を沸かすだけで 30 分以上かかる。プロパンガスはプロパンガス協会の業者がもってくる。業者が来ないとガスが使えない。今回は中学校からコンロを持って来た。備蓄倉庫を開けてみたら、やかんもなければ鍋もないので、平間第一町会の会館から鍋をもってきてお湯を沸かした。

応急措置は日赤のボランティアグループが来て、応急訓練をした。

防災については、皆さんに協力をいただき、わが町だけは安心、我が家だけは安心というまちづくりをしたいと考えている。後ほど配布する冊子を見て、災害に強いまちづくりをしてもらいたい。

安岡 川崎市で防災計画作成委員会をつくっている。各区から自主防災代表などが出ている。実際に今、7 時頃に地震があると、電車が停まり、役所の人は出てこない。72 時間は僕らだけで生き延びないといけない。しかし、行政はなかなか頭を切り替えられない。行政が防災計画でやることと、僕たちが 72 時間やることの二つがある。

未兼 それが時系列だ。

安岡 11月23日に、南河原中学校で地震のための避難所訓練をする。

手塚 どうもありがとうございました。

2. 審議テーマ「地域防災活動の推進」について

事務局（高橋主幹）が配布資料を説明し、意見交換を行った。

手塚 前回出た意見を整理し、解決に向かう方向として、「避難所運営訓練を実施しよう！」と「要援護者避難訓練を実施しよう！」の二つが事務局案として出ている。あくまでたたき台なので、前回議論の足りないところをさらに深め検討したい。自主防災活動を推進すること、地域における避難活動をどうしたらいいか、この二つについて、具体的に取り組むには何をしたらいいのか意見を出して欲しい。

未兼 震災後24時間なり72時間は避難所に行かず、自宅に待機することを幸区で最初に打ち出したい。避難所は要援護者でいっぱいになる。元気な人は避難せずに家庭の備蓄で対応する。この点を、「地域の自主的な活動を進めること」のところに大きく一本入れてもらいたい。その上で、これらを進める。

要援護者は未来の人か、現在の人か、過去の人かということがある。誰を一番重視し、避難所運営をするのか。そこまで突っ込んで討議しないと、避難のためだけの避難場所になってしまう。24時間は避難せず家庭にいてもらう。自宅待機ということが一番最初にもってきて欲しい。

手塚 玉川小学校の話聞いてどう感じたか。なかなか、具体的に進めていくのは大変なんだなという印象をうけた。まだまだ課題はあるようだ。避難所運営は大変な問題だと感じた。

小林 幸区では、数年前に避難所運営組織をつくったが実際の運営活動はしていない。中身よりも、まず組織をつくらないといけない。組織を作ってから7、8年経つ。幸区でも何度も避難訓練は実施し、宿泊訓練もやっている。それが実になったかどうかは難しい。まず組織をきちんとしておかないと、なかなか避難所の運営はできない。

手塚 自主防災の組織はよく考えて作ってあると感じた。ただし、それがいざというときに、どこまで実際に役に立つかとを感じる。

安岡 行政が来るまでの72時間の前と後がある。前は全部自分たちでやらないといけない。11月23日の避難訓練では、避難者名簿の作成、受付・登録カードの作成、防災無線による区役所との情報交換、総務班と食料物資班、情報班、救護班等の設置などを行う。幸病院の横に井戸があり、震災時の指定井戸になっているので、その活用を実際にする。水を汲み、煮炊きし、食料をつくる訓練をする。

青山 震災が発生する時間帯によっては、役所の人がいる場合といない場合がある。二つの行動を考える。

備蓄倉庫の内容すらわかっていない。一番の問題はトイレだ。幸区にはビニール袋が何袋と来ている。備蓄倉庫のトイレを見ておいたほうがよい。

安岡 おしっこをすると固まるものを600人分備蓄している。それを使って実際にやってみる。

青山 幸区内に12個井戸があるが、使っていないところも多い。煮沸すれば使用できる。

川崎市は水道が壊れないというが、いざというときの水の確保も必要だ。

安岡 今日昨夜地震があると、明日の朝は行政が来ない。地元だけで生き延びる方法を考えないといけない。

青山 区役所で、備蓄倉庫に車椅子があるところとないところがある。担架は4人必要だが、車椅子は一人で運べる。ただし、車椅子を使うには、道路の段差の問題がある。若い人がいれば担架でもいいが、いないときは車椅子が必要になる。

安岡 担架を毛布で作る訓練も実施する。

手塚 町会現役ではないので、町会がどう取り組んでいるのかがわからない。役員はわかっているが、一般の人には聞こえてこない。もっと役員と住民と一緒にやらないと、役立つ訓練にならない。

町会で細かく組織づくりを考える。私の町会には10班あるが、その中で誰が中心になるのか。食料などいろいろな問題が出てくる。組織の中で細かく役割を決めないと、考えはまとまっているが、今日きたら本当に約には立たない。何から手をつけたらいいか、もっとも急を要するものが何かから手をつける。

安岡 南河原には避難所が3つある。備蓄倉庫は中学校にしかない。中学校から小学校2校に運ぶことになる。校長に空き部屋はないかと聞いてみた。実際に地震があったら、南河原小学校から中学校までとりに行く。個数が限られるので、争奪戦になるかもしれない。

青山 全部が避難するわけにはいかないなので、地域に残る人をつくらないといけない。

末兼 医療関係者との連携。災害弱者をどうするか。学校には校医がいる。もしくは、ボランティアに応援をもらう。まず、けが人をどうするかだ。その人たちを助けた上で、避難所を立ち上げる。医療のためには、水の手当てやビニールシートが必要になる。具体的なつつこんだ訓練が必要になる。

担架でなく、リアカーが一番いい。折りたたみのものが1万円くらいである。そういうものを具体的に検討する。

手塚 おんぶという話もあるが、高齢者ばかりでなかなか難しい。

末兼 地元には病院があっても、けが人は数百人出るので、避難所で受け入れないといけない。医療関係の人が重要なポイントになる。

安岡 幸病院の隣に公園があるので、ヘリコプターが降りられるようにしてくれと市に言ったが、いい返事がなかった。市でヘリコプターを持っていても、降りる場所がない。

事務局：大八木 リアカーは、備蓄品として各備蓄倉庫にある。南河原には折りたたみ式が3台。救護者は日赤奉仕団にお願いする。また、今回の訓練では、出席する管理職の中に医者が一人いるので、モデルケースとして救護所を手伝ってもらう。現実の場面では、医師の各地域への配置は難しいので、地域内の医療関係者OB、看護師等の免許を持っている人などを掘り起こす必要がある。

救護所は、区内で一箇所という考えだったが、けが人の応急手当はどうか。避難所にどう医療班を手配するかが課題になっている。今後の方向性の中で考えたい。

葉山 これまでの意見で、避難所における具体的な処理方法が出ているが、区民会議として提案できることは何か。幸区には22の避難所がある。各避難所の統括者が決められているのか。決まってないと運営がばらばらになる。その点を区民会議で提案する。

避難所運営委員会を立ち上げて、統括者を決めてもらう。その上で、今話が出たような具体的なことを、自主防災組織でくみ上げてまとめる。各避難所で対応を決めてもらえばいい。72時間以内をどうするかとか避難所運営委員会を立ち上げた時点でいろいろな問題が出る。区民会議としては、避難所運営委員会を立ち上げて欲しいという要望を出し、統括者を選んでもらうことを提案してはどうか。運営委員会の中で、様々な意見が出るのではないかな。

萩原 区民会議として課題整理をしないと、具体的な災害が起きたときの議論に走ってはいけない。この場で何を検討するのかを確認しないといけない。災害が起きたときに、72時間は自前で調達し、生き延びるといことが言われている。それはそれで啓発の部分で考えればよい。まず、避難所運営会議を立ち上げていくことと、統括者、指示系統をどうするかが重要だ。それを提案として出す。

災害弱者については、民生委員で実態調査をする話がある。一人暮らしの名簿は把握している。障害者も年末助け合いで慰問金を社協が届けるので、ある程度の名簿はある。民生委員では、一般的に77歳以上が高齢者。老人クラブはもっと低い年齢から高齢者だ。誰がどこでどんな日常生活を送っているかがわかってこそ、助けられる。そこをつかまないといけない。

忘れがちなのが子供だ。学校から地域に戻った子供は、地域全体で見守る。社協もしっかりネットワークの一員として参加していければと思う。民生委員を巻き込みながら、社協の役割を果たす。

手塚 個人情報の問題にすぐぶつかる。個人情報保護を守っていても、災害時に助けることができない。いざという時のためには、法を守らなくても個人情報を集める。

萩原 民生委員の立場では、最優先するのは人命だ。ある程度の情報開示はしないといけない。できる限り、当事者、対象者の同意を得る作業をする。防災だけにこの名簿は利用する、情報開示するということを話して同意を得る。同意を得れば、情報の開示は可能である。同意を得られない場合が問題だ。

手塚 説得するしかない。

綱川 それぞれの役を受け持つ人を決め、その上で話し合いによって細かい点を検討する。役所の人や家に帰っていない場合、自分の地域にも役所に勤めている人が住んでいる。その人の協力も考えられる。老人クラブには寝たきりや虚弱の人がいて、調べている。名簿を作ることも大切だが、名簿がなくても単位クラブの人は頭に入っている。そういうつながりも重要。そのためには、地域を基盤としたクラブなので、みんなが共鳴し、親しくやっていくことが重要だ。

荒井 皆さん防災のことをやっているのだから、各論から入ってしまう。総論をもう一度見直すことが必要だ。葉山委員、萩原委員が言ったことに同意する。

まず、避難所をどう運営するか、机上だけでなく実際に即した組織づくりが必要だ。

備蓄が足りなくて奪い合いになる。避難所の指揮系統をしっかりさせないと、そういう混乱が起こる。いざとなれば混乱が起こるかもしれないが、起こる前にできる限りのことはやっておく。指揮系統は大変大切だ。烏合の衆が集まっても、何もできない。運営委員会を作って、各地の特性に合った避難所づくりをすることが大切だ。

病院では、患者の優先順位を決めてリボンをつける。重い患者から診る。その際、

年齢で分けていいのかという問題がある。負傷の状況でランクづけする。そういうことも、統括者がいないと、誰が判断するのかで混乱を招く。

医療に関しては先日会合があり、行政から市で一貫してやるという指摘があった。8日に市立病院で市が主催する訓練がある。重要なのは区単位だが、そこは区に任せる。他の区では、医師会と区民会議が結びついて検討していないので、感心された。幸区は幸区で、独自に結びついてやっていきたい。具体はまだであるが。

区医師会の会議では、避難所に医師が行くのはどうかということだった。まず、自分の診療所を確保しないと対応できないということだった。避難所は応急措置だけにする。避難所と医療施設との内容の差がある。避難所で、どれだけ濃い医療ができるか。両者を分けないと、結局両方がおろそかになる。

小林委員が言ったように、避難所立ち上げで何が足りないかを出すのも、運営委員会を構築するのと同じくらい大事なことだ。現実には即した問題点が出てくる。

弱者は弱者で専門がいる。備蓄に関しても委員を決め、何が足りないかを検討するのも一つの案である。

大久保 備蓄の問題で、家庭の備蓄を3日間ということが徹底されていない。まず、その広報啓蒙が必要だ。できる限りは各家で守る。22箇所ですべての訓練をやってみる。22箇所それぞれで実施することが大切だ。

手塚 役所や町会ということではなく、地域全体でしっかり取り組むようにしないといけない。運営委員会、組織づくりということから、もう少し地域の住民にも呼びかけて、一緒になって考えていくことが重要だ。

末兼 地区の自主防災の班をどう作るのか。5軒で一つの班にし、その上に自主防災組織があり、自治会がありといった細かいネットワークづくりをどこでどうつくるか。

手塚 まず、町会が中心になって呼びかけないといけないだろう。

青山 自主防災組織ができていますので、それを中心に考えないといけない。町会即自主防なので、組織をきちんと作っておけばいい。

葉山 避難所ネットワークの中の各避難所で、統括者を決めないといけない。

安岡 それは決まっている。

小林 避難所の責任者は決まってない。避難所の責任者が大切だ。

末兼 72時間寝ずに活動することになるので、若い人を選んで欲しい。統括者はそのときの判断で、大変な重労働だ。年寄りではとても無理。

安岡 南河原だけの訓練はしているが、組織だった、幸区の本部の訓練はやっていない。

葉山 前回の説明で、要援護者、要救護者について、平成17年に名簿ができており、区と消防署が持っているというのは本当か。

事務局：大八木 高齢者の情報は区と消防署、障害者の情報は区が持っている。ただし、紙ベースなので、住民記録とリンクし、更新できるものをつくらないといけない。個人情報保護法があっても超法規でやらないといけないときがある。災害が起きたときに、名簿を区と消防だけが持ち続けたのでは意味がない。そのときにどう公開するか。民生委員や消防団は非常勤の公務員という位置づけで、公開してもいいという意見もある。まだ調整がつかない。本人の同意を得れば、地域に公開し安否確認ができる。どういう内容の名簿をつくり、どう公開するかを検討している。

名簿の基礎には、平成 13 年に民生委員が作成したものも含まれている。現実には、日常どんな生活をしているのかは、地域に住む皆さんの情報の方が一歩進んでいる。今後、行政とお互いに連動すれば、よりよいものになると思われる。

末兼 要援護者の名簿に、乳幼児や妊産婦が入っているのか。そういう人は把握しているのか。

事務局：大八木 乳幼児、妊産婦は要援護者名簿には入っていない。そういう方については、小児医療証の交付、妊産婦は、母子手帳の交付で把握できる。

手塚 自主防災活動、地域での救助活動を具体的に進めていくということで、まとめとして出してほしい。

3．第 2 回区民会議への報告方法について

第 2 回区民会議での、専門部会 A の報告内容案について、事務局（高橋主幹）が配布資料を説明し、意見交換を行った。

基本的な内容については、事務局案で了承を得、本日の意見を踏まえて、部会長と相談の上、最終版を作成することで確認した。

なお、報告は手塚部会長が、パワーポイントなどを活用しわかりやすく行うこととした。

青山委員から、以下の意見が出た。

青山 「関係団体の協力と役割分担」に危険物保全協会、消防団、事業所消防協力会、建設業協会、防火協会、防犯協会を加える。

4．その他

（ 1 ）企画運営部会報告

9 月 19 日（火）に開催された「企画運営部会」の結果を、事務局（高橋主幹）が報告し、内容を確認した。

（ 2 ）第 3 回専門部会の開催について

第 3 回専門部会 A は、以下の日程で開催することに決定した。

開催日時 11 月 27 日（月） 18:30 開会
会 場 幸区役所第 2 会議室

閉会